

歴史探訪

クラブ

其の139

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局3635
FAX 22局3811

渥美半島の葉タバコ栽培①

日本の喫煙文化は江戸時代から盛んになりました。喫煙とは、タバコの葉を乾燥させ加工したものに火をつけ、その煙を吸うというものです。タバコは、戦後ますます需要が高まりました。映画の中の人気俳優が吸う「カッコイイ姿」もその増えた理由の一つです。

しかし、平成15年、健康に悪影響があることから、健康増進法が施行されました。それ以降、急速に公共交通機関・施設などにも喫煙場所が

なくなり、喫煙をめぐる社会情勢は変化しています。

さて、渥美半島は東海地方でも有数の葉タバコの栽培が盛んなどころです。歴史探訪クラブ89号でもご紹介した渥美半島のことを児童がまとめた『半島渥美』（昭和16年）に、大草尋常小学校の児童が葉タバコ栽培について、「昭和14年に神戸町で6・7段試験的に作ったのみが、神戸村で約20町歩程作っている」と書いています。試作を始めて2年足らずで、

地域を代表する産業と紹介されていくことは、よほど期待が高かったのでしょう。また「煙草の仕事は、いも麦三作とれるし、どんな子どもでも役に立つてよい」と作付けの効率化のプラス面ばかりでなく、子どもでもお手伝いもしやすい格好の作物として記しています。面積当たりの生産額が高いのが一番の魅力でした。

その後、神戸・大草町を中心に、渥美半島一体で栽培が本格化します。それ以前は、農家の重要な収入となっていた

たのは養蚕ようさんでした。しかし世界恐慌を期に絹の需要が減ると、養蚕農家はその対応策として、葉タバコの栽培を行ったようです。また、高度成長期で嗜好品としてのタバコの需要も高まり、葉タバコ栽培はますます盛んになりました。

最も盛んな昭和30年代から40年代後半には、取材をした大草町のある地区では、ほとんどの農家が葉タバコの栽培をしていたほどです。昭和43年の豊川用水の全面通水とともに

に、葉タバコの生産地でもスイカやメロンなどのさまざまな作物が作られるようになり、葉タバコ栽培農家数は減りました。しかし、収穫量は変わることなく、昭和50年代後半にはピークを迎えました。葉タバコ栽培の黄金期ともいえます。

日本でのタバコ消費量のピークは平成8年ごろまでですが、渥美半島では昭和の終わりとともに、栽培農家も収穫量も減少していききました。その理由の一つは、葉タバコの病気の流行、外国産葉タバコの輸入により、価格が上がらなくなったからだと思います。

現在では、葉タバコの畑を見ることも少なくなっています。

・・・葉タバコ栽培②に続く
(増山)



●神戸町の葉タバコ栽培地（平成23年6月3日撮影）

今月の「表紙」

▼今年、夏の暑さが長く引き、咲き始めが遅かったというコスモス。まだ暑くても、コスモスの花を見ると、なんとなく秋がきたような気分になります。華奢なイメージですが、台風17号の強風で倒されても、起き上がろうとするたくましい花です。その強さとしなやかさ、私も見習わねば。(O)

【表紙の写真】コスモス畑(サンテパルクたはら)

本誌は再生紙を使用しています。